Fujinokuni
ふじのくにルネサンス
～人づくり・地域づくり～
Renaissance

人づくりを通じて、新しい地域のあり方を創生する静岡県。
富国有徳の精神で切り開く明るい未来の背景には、
人と地域が生み出す革新力がある。
今回は、文化財の一元管理と情報発信で、地域の宝を次代へつなぐ
「しずおか文化財ナビ」の取り組みを紹介する。

活かして残す文化財

豊かな自然と悠久の歴史に恵まれた本県は、文化財の宝庫だ。県内に所在する文化財は、令和3年9月時点で875件（国指定320件、県指定555件）と全国で13番目（令和3年5月1日現在）に多い。その種別も建造物、絵画、彫刻、工芸品などの有形文化財から、祭り、踊り、神楽などの無形民俗文化財、あるいは天然記念物、史跡、名勝といった自然や歴史、景観にまつわるものまでさまざまだ。

本県の多彩な文化財は、観光資源、地域振興、教育、産業育成などの分野で幅広く活用できるが、一方で少子高齢化に伴う語り部の減少、コロナ禍による来訪者の激減、保存管理コストの負担増などの問題を抱える。無形民俗文化財には継承者不足という側面もある。そこで県は、県内の文化財の総合的な保存・活用の方針を示す静岡県文化財保存活用大綱に沿って、静岡県文化財データベース、通称「しずおか文化財ナビ」を整備し、文化財の種類ごと、かつ市町単位で行っていた情報を一元管理するとともに、令和3年3月にインターネットで情報公開を始めた。目的は、文化財の存在や価値を広く発信することで、それらの保存・活用を推し進めること。キーワードは「活かしながら残す文化財」だ。

文化財を活かして明るい未来を創造！
しずおか文化財ナビ

〝巡ってみたい〟と思わせる動画で若い世代へ

インターネットサイト「しずおか文化財ナビ」では、県内の全文化財を市町、種別ごとに一覧で表示できる機能を設けた。例えば、関心のある市町、あるいは興味のあるジャンル（国宝、特別史跡、建造物、絵画、工芸品、天然記念物、名勝など19の区分・種別）をクリックすると、該当する文化財の名称がすべて表示される仕組みは、直感的で分かりやすい。さらに表示された名称を選択すれば、文化財の情報、画像、所在地の地図などを見ることもできる。これはまさに〝ありそうでなかった〟全県レベルの文化財検索エンジンだ。

ネット情報の目玉は、若い世代の興味を喚起する動画の配信だ。県内に所在し、誰でも訪れることのできる40件の文化財を10のテーマに分類し、「しずおか文化財めぐり」と題して公開している。テーマ設定も「そっと覗いてみたい。穴篇」「想像上で攻めてみたい。城跡篇」「レトロな浪漫を感じたい。擬洋風建築篇」などとユニーク。「伝統を再発見したい。美術工芸篇」では、県内の文化財を通じた「○○」したいを10のテーマ別動画で紹介。

しずおか文化財めぐり
～やってみたい10のこと～

色絵藤花文茶壺
仁清作の色絵茶壺の代表作として定評がある。温雅な形とこれによく調和した藤花文様、巧みな轆轤技術に仁清の特徴が顕著に現われている。

FUJINOKUNI Topics
～ふじのくに文化財オータムフェア～10・11月は県内各地で文化財に触れるさまざまな催しが開催されます。秋は文化財に親しんでみませんか？詳しくは県HPをご覧ください。お問い合わせ：静岡県文化財課 054-221-2554

写真で紹介する文化財マップ

1. 色絵藤花文茶壺
2. 太刀 銘宗忠
3. 馬場平古墳出土遺物
4. 梅蒔絵手箱
5. カモシカ
6. 熱海 来宮神社（阿豆佐和気神社）の大クス
7. 高根白山神社古代神楽
8. 爪木崎の柱状節理

太刀 銘宗忠
三嶋大社に伝わる刀剣。鎌倉時代の作品。

工芸篇」では、40年ぶりの塗り替えが終わったばかりの静岡浅間神社・楼門など、最新情報も接写レベルで鑑賞できる。臨場感にあふれ、視点にも工夫を凝らした美しい動画の数々には「実際に行ってみたい」「もっと詳しく知りたい」と思わせる力がある。この動画は、静岡県観光協会のYouTubeチャンネル、県公式ホームページ内の特集ページで視聴できる他、この10月からJR静岡駅構内のサイネージでも15秒のCMとして配信されている。

馬場平古墳出土遺物
馬場平古墳からの出土品。鏡4面、銅鏃5本、瑪瑙勾玉1個、碧玉製管玉22個、ガラス製小玉11個、碧玉製巴型品1個がある。古墳時代中期初頭のもので、考古学上貴重な資料である。

梅蒔絵手箱
蓋表に梅樹、几帳と共に表された文字は、白楽天の『白氏文集』所載の一説から引用したもので、その歌意に取材した歌絵となっている。図様良く整い、蒔絵の精妙な優作であるとともに、化粧具としての内容品を具える最も古い手箱の遺品としても貴重である。

明るい未来の創造へ

文化財は、地域の宝と言われる。地域の歴史、文化、暮らしなどを内包する文化財は、知ること、触れることで地域に対する親近感や愛着を醸成する。郷土愛が育てば、地域貢献の気持ちが芽生え、地域の発展や活性化に取り組む人々が増えるだろう。その意味で、文化財の存在や価値を広く情報発信することは、それらの保存・活用を推し進める上で重要な取り組みとなる。今後県は、文化財のデータベース化を一層進めるとともに、動きに意味のある無形民俗文化財などは動画として保存・公開する。また、ガイドによるリポートのネット配信などを通じて、県民総ぐるみの保存・活用を働き掛け、〝活かしながら残す文化財〟の在り方を推進していく。また、わさび田、茶園、棚田といった本県特有の宝と言える文化的景観の保護にも力を注いでいく構えだ。

文化財を知り、学び、活かし、後世へつなぐ。それは地域の財産に恵まれた本県の務めであり、誇りであり、明るい未来の創造でもある。

熱海 来宮神社
（阿豆佐和気神社）の大クス
熱海市来宮神社の楠。指定当時の幹は北側12.5m、南側8mあり、巨木として指定された。

カモシカ
わが国特有で極めて貴重な動物として、地域の定めなく指定されている。ウシの仲間。

高根白山神社古代神楽
藤枝市瀬戸川の水源にある高根山は、農民の信仰があつい山で、山頂近くの高根白山神社境内の砂を一握りと、宇嶺滝の水を苗代田の水口に散じて雨乞いとするなどの民間信仰があった。

爪木崎の柱状節理
須崎半島の東南端、爪木崎の南側に柱状節理の断崖があり、俵磯海岸と呼ばれている。溶岩の冷却作用によって生じたもので、発達の状況が最もよく現われている。伊豆七島の展望に優れ、市の名勝地に指定されている。